

キャベツ レタス 価格高騰を実感8割

パッケージサラダ 天候理由の値上げ許容6割

サラダクラブ（新谷昭人社長、本社＝東京都調布市）はこのほど、「サラダ白書2025」を発表した。8月31日の野菜の日に合わせて行う年次調査をまとめたもので、今回は「野菜・サラダの喫食実態」「パッケージサラダに関する意識」に加え、天候不順を背景に昨秋から今春にかけて価格が高騰した「キャベツ・レタスに関する意識」についても調査した。期間は25年2月26日～3月1日、対象は全国の20～69歳の男女2060人。価格が高騰した時期と調査期間が重なったこともあり、価格高騰を実感している人は8割を超えた。また約6割は、天候理由の不作の場合はパッケージサラダの値上げもやむを得ないとしている。

キャベツ・レタスのツ・レタスを買う機会が「価格高騰を感じている」減った」と回答した。また、74.2%は「キャベツ・レタスの加工品も値

上がりする」と予想。いずれも女性40代～60代、専業主婦層、60代の夫婦のみ世帯で高い割合を示

した。パッケージサラダの値段が上がっても仕方ないと思う理由として、「異常気象による野菜の生育への影響」（58.3%）、「農業従事者の減少による生産コストの増加」（40.6%）、「輸送費や包装資材の値上がり」（39.4%）が上位に挙がった。

円。25年度は2100億円を見込む。昨年12月～今年2月の野菜価格の高騰時には、前年同期比30%増と大幅に伸長。初めてパッケージサラダを購入する人も7%増加した。リピーター拡大のため、会社では簡便なメニューや汎用性のあるレシピの提案を進めていく、としている。

こうしたことをふまえて、会社では「朝食サラダ習慣」を提案し、朝食でのパッケージサラダ利用拡大に取組む。パッケージサラダを使った時短メニューを、料理研究家の島本美由紀さんと開発。「ケールが入った7品目の緑黄色野菜サラダ」に、ヨーグルト、牛乳、果物を加えてミキサーにかけるだけで作れるスムージーなど、3品を同社サイトのレシピページに公開した (https://www.saladclub.jp/recipe/recipe_harenoh1_09.html)。新学期がスタートする6月に合わせ、「お手軽朝食レシピ」として提案する。



「サラダ白書2025 発表会」にて、「ケールが入った7品目の緑黄色野菜サラダ」(左下)を使ったスムージー(右下)の調理を実演する島本さん(右)



同社でも、原料価格高騰や継続的な資材費・エネルギー費・人件費の上昇等を受け、3月にパッケージサラダ20品目の値上げを実施。その後、原料調達の安定が見込まれる6月から、7品目について値下げを行った(既報)。物量はやや減少したが、売上げは前年をほぼ維持しているという。24年度のパッケージサラダ市場は、前年度比3.2%増の1949億

「平日の夕食」は68.9%、「休日の夕食」は58.2%。一方で、朝食での登場機会は11.9%、近年は減少傾向にある。さらに、コロナ明け以降、特に若年層で朝食の喫食機会減少がみられ、24年の20～39歳の朝食欠食率は29.6%にのぼる(農水省「食育に関する意識調査」)。